Good APP in GH
The future in your hands

GH-X♀ 性選別精液

JP3H55731X	ユップ	(NTP 2位 プラネット×ショッテル)
JP3H55177X	ギヤラクシー	(NTP 5位 プラネット×ショッテル)
JP3H55747X	レジエンド	(NTP11位 ブロンコ×ゴールドウイン)
JP3H55206X	アレックス	(NTP12位 バーンズ×ジエット ストリーム)
JP3H55056X	ソクラテス	(NTP17位 ソクラテス×ショッテル)
JP3H55626X	ルピナス	(NTP19位 マン オーマン×ゴールドウイン)
JP3H55604X	シユール	(NTP38位 クレイマー×ショッテル)
JP3H53998X	スプラッシュ	(NTP71位 ミスター サム×ゴールドウイン)
JP3H54836X	バルストRED	(NTP75位 バーンズ×セプテンバーストーム)
GHJE-4X	マーチン	(プライズ ソクラテス×ガーネット)
GHBS-10X	フイッシャー	(グランドスラム×ダイナステイ)

2016年4月

●写真撮影/ホルスタインマガジン社

一般社団法人
ジェネティクス北海道
GENETICS HOKKAIDO assoc.
〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル13F

〈業務部〉
TEL(011)242-9645
FAX(011)242-9651
〈改良部〉
乳牛改良課
TEL(011)242-9646

●道北事業所……TEL(0166)57-6111 FAX(0166)57-6113
●道東事業所……TEL(0153)72-4554 FAX(0153)72-1325
●道央広域事業所 広域 TEL(011)375-4395 FAX(011)375-4411
道央 TEL(011)375-4422
●十勝北見事業所……TEL(0156)63-3838 FAX(0156)63-3839
●十勝清水種雄牛センター…TEL(0156)62-2158 FAX(0156)62-2150
●道央種雄牛センター…TEL(011)375-3939 FAX(011)375-2330

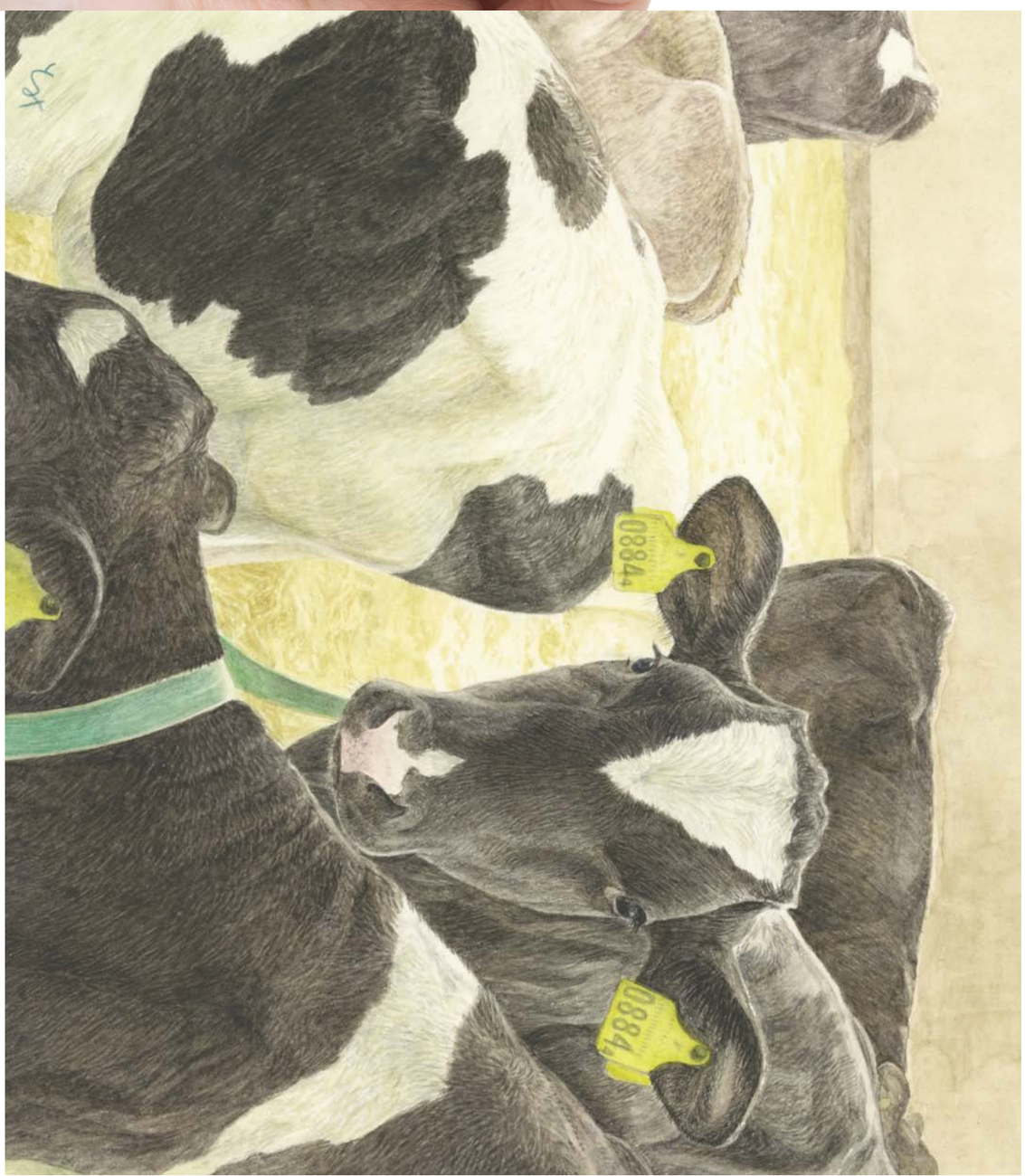
ホームページアドレス http://www.genetics-hokkaido.ne.jp

発行所／一般社団法人 ジェネティクス北海道
発行人／松尾 誠之 平成28年5月15日号
Vol.418
5月

SIRE サイア

CONTENTS

2 ジェネティクス北海道 家畜改良顕彰(ホルスタイン種)受賞者紹介
3 ジェネティクス北海道 家畜改良顕彰(黒毛和種)受賞者紹介
4 現場レポート(乳) 日本とカナダに2人の親方を持つ木古内町の星 ～輪島牧場を訪ねて～
6 交配相談レポート 操上牧場 ～情熱に左右されない「搾れる牛」へ～
8 注目のカウファミリー 第30回 サンデイバレー プレーン サフアイア VG-87
10 北米資源調査レポート
12 現場レポート(肉) 松岡牧場 ～12年間の軌跡、子供たちに誇れる牧場へ～
14 ☆食レポ☆ 「おいしい牛乳屋さん クレムリ」
15 新人紹介



「子牛のすきま」 画:冨田 美穂 HP「牛の木版画と絵画」http://miho-tomita.jimdo.com/ ブログ「うしのつむじ」http://usinotumuji.blog28.fc2.com/

ジェネティクス北海道　家畜改良顕彰（ホルスタイン種）

平成22年より当団で実施している改良に顕著な貢献した優秀種雄牛の生産者に対する顕彰制度に基づき、この度の種雄牛評価成績2016－2月の総合指数(NTP)上位40位以内に新しくランキングされた３頭国産種雄牛を顕彰いたしましたので、その受賞者を紹介します。

NTP第11位	JP3H55747　JC　レジエンド　バンビ	枝幸町　澤田牧場
NTP第31位	JP3H55566　ケネカランド　テンプトレス　ブラツク　ブレイン　ET	中標津町 株式会社 ケネカランド
NTP第35位	JP3H55675　グリーデイミル　スーパー　ゴールド　デンジヤラス	苫前町　グリーデイミル　クラブ

澤田牧場（北海道　枝幸町歌登）

左から 当団柾谷常務･澤田和人氏･JA宗谷南 松永乳牛改良課長

澤田牧場は祖父母、父母、三代目の澤田和人氏ご夫妻および子ども5人の、4世代同居の大家族で、経産牛102頭、未経産牛70頭を飼養しています。50年前に祖父が建てた牛舎を増改築し、対頭式つなぎ牛舎に現在搾乳牛89頭、昨年度出荷乳量は953トン、平均能力はM10,600Kg　F4.3%　P3.4%、平均体型得点84点です。また、今回顕彰された「レジエンド」の母の「バンビ」ファミリーは、メスの確率が高く、事故率も低かったので今では牛群の30%を占めています。

NTP　No.11でデビューした「レジエンド」は、H8年頃のMOET事業まで遡り、H15年の当団エリート造成プログラム事業により導入した受精卵由来で、決定得点が全国第1位、体細胞スコア第2位の好スタート。

和人さんは「どんな飼養形態にも、順応できるバランスの良い牛づくりに役立ってほしい。」と期待しています。

株式会社　ケネカランド（北海道　中標津町）

左から 当団 松尾専務、(株)ケネカランド 本田勉氏、JA計根別 西塚組合長

2007年に株式会社として設立され、本田牧場4代目の本田勉氏は2012年に、初代社長の父親から委譲され、社長に就任。土地面積95ha、経産牛160頭、未経産牛100頭で、社長ご夫妻と母親および従業員1名で管理しています。搾乳はロボット2台と8頭ダブルのパーラーで、1頭当たりの平均能力は35kg／日、H28年は1800ｔの生乳を出荷する計画です(昨年は1350ｔ)。

今回の顕彰種雄牛「ブレイン」は、中標津町福村牧場より受精卵を購入し生産されました。母の「ハピイイースト　テンプトレス　ブラック　ウイン　ＥＴ」は、当団種雄牛「エス　テンプター」等を輩出した「マナージェム」ファミリーの中でも、2歳時に体格得点ＧＰ83点で、特に乳用性に富んだ体型と乳器は素晴らしいものでした。当団種雄牛「ネオ」との計画交配で、管理形質、繁殖性を改良する種雄牛です。

顕彰牛に対して、「(自社牧場で)ロボット搾乳を始めたことにより、乳頭配置や乳頭の長さについては強く考慮するようになり、「ブレイン」は間違いなくその1頭として利用できます。しかも自分の冠名で嬉しい！」また、「目指していた事(種雄牛で表彰)が1つクリアでき、さらに優秀な種雄牛を作ってみたいです。」と受賞の喜びを語ってくれました。

グリーデイミル クラブ（北海道　苫前町）

左から 当団 柾谷常務･JA苫前町 依田農業振興部次長･
グリーデイミル クラブ 代表 寺林康治氏･JA苫前町 酒井参事

「グリーデイミル　クラブ」は平成17年3月に、受精卵技術向上のために苫前町の酪農家寺林康治さん、中嶋卓広さんおよび石川昭人さんの3人で結成されました。代表の寺林牧場は明治34年に富山県より入植、昭和17年に分家し、現在三代目になります。ご両親と子どもの6人家族で、経産牛37頭と未経産牛25頭を飼養しています。経営面積60ｈａ、うち小麦3ｈａ、ラップサイレージ、デントコーンを給与しています。牛に無理をかけない飼養管理を心がけ、分娩後のトラブル等はほぼなかったそうです。

顕彰された「ゴールド　デンジヤラス」に対して、「(当団に導入されるまでの数ヶ月は)発育がものすごくよく元気な子でした」。また、「母牛は乳器の付着形状のよさに突出し、そのよさを引き継ぎ乳器は素晴らしい中型の牛を求める方には最適な種雄牛だと思います。」とのコメントをいただきました。

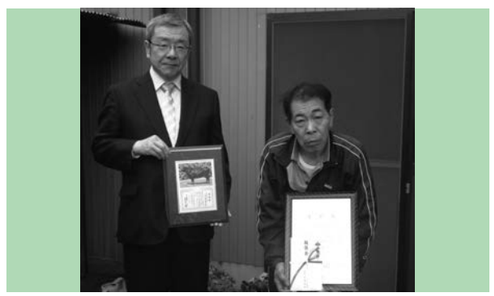
また、「種雄牛を生産できたことは大変名誉なことであり、大変うれしく思います。授精師をはじめとする農協関係機関、素晴らしい仲間がいた事だと思いますので感謝いたします。今後も酪農業界、酪農家の皆様にお役に立てる更なる種雄牛を生産できるように努力していきます。」との一言を頂戴しました。

ジェネティクス北海道　家畜改良顕彰（黒毛和種）

昨年度より実施している改良に顕著な貢献した優秀黒毛和種種雄牛の生産者に対する顕彰制度に基づき、この度の北海道産肉能力の育種価(H27. 12評価)で、当団所有する種雄牛の中に順位5番以内に新たにランキングされた牛、および新規選抜牛計3頭の生産者を顕彰いたしましたのでその受賞者を紹介します。

当団順位第3位	H黒-199　晴国花	徳島県　松平牧場
当団順位第4位＆新規選抜	H黒-217　拓百合	幕別町　井田牧場
新規選抜	H黒-213　福忠勝	小平町　有限会社　グリーンリーフ

松平牧場（徳島県　吉野川市）



左から 当団松尾専務･松平哲幸氏

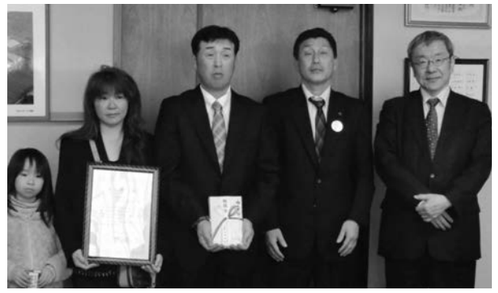
昭和62年から黒毛雌牛の繁殖を始めて、平成6年に和牛専門農家へ転身し、自家牧場の雌牛に有名種雄牛を交配した受精卵の生産と販売もスタートしました。現在およそ80頭の繁殖牛、20頭の育成牛および少数の肥育牛を飼養しており、年間約140頭の採卵を行っています。

今回の受賞牛「H黒－199晴国花」は、一昨年12月の北海道黒毛和種種雄牛育種価で14位でデビュー、翌年6月の評価では11位、そして今回(H27.12評価)は12位と安定する実力を示しています。

現場後代検定では、上物率85.7%、BMS　No.7.1と脂肪交雑能力が高く、母系を問わず雌牛での上物率は100%を誇る結果でした。

松平さんは「晴国花」が生まれた時の印象について、「母「みつ135の4」に似た質感の良い綺麗な牛だった。絶対いけると思った」。また、「今後はこれまで以上に種雄牛造成を行うほか、肉質・増体・食味などの部分でも満足のいく牛を作りたい」と語りました。

井田牧場（北海道　幕別町）



左から 桃花ちゃん、マリ子夫人、井田拓次氏、JA幕別 前川常務、当団 松尾専務

井田拓次氏が生産した「拓百合」号について,本誌vol.416(平成28年1月号)にてご紹介しましたが、今年3月に上物率96.4%、平均BMS No.7.3という優秀な後代検定成績により選抜されました。

井田牧場は大正8年に井田氏の曾祖父が富山より移住し、搾乳牛2頭で牧場を始めて、平成元年から黒毛の繁殖をスタートさせ、平成10年に黒毛繁殖専門農家に転換しました。現在ご夫婦とお父様の3人で雌牛45頭を飼養しています。素牛生産をしていく中で特に重視しているのはまず受胎性、そして出生後の下痢予防にも気を遣われているそうです。

今後は50頭程度まで増頭し、優れた母体の造成、さらには肥育一貫経営にもチャレンジしたいとのことでした。

「拓百合」号については、「すでに自家牧場で3頭の雌牛に交配しました。ただ、皆さんに使って頂けるのかは不安な面もあります。もちろん拓百合の活躍には生産者として期待していますよ。」とちょっと遠慮がちにおっしゃっていました。

有限会社 グリーンリーフ（北海道　留萌郡小平町）

左から JA南るもい　橋村組合長･(有)グリーンリーフ取締役 安田幸治氏･
(有)グリーンリーフ取締役代表 前崎正弘氏･JA南るもい　太田参事･当団　柾谷常務

平成16年に水稲面積の拡大や和牛繁殖を基本として規模拡大を目的に、農家3軒で(有)ｸﾞﾘｰﾝﾘｰﾌを設立しました。

現在、肥育牛53頭、経産牛29頭、未経産牛16頭を主に5名で管理しています。繁殖を主体とした肥育一貫経営で、基本的に気高・田尻・藤良を均一にした牛群の構成となっています。

「H黒－213福忠勝」は、当団職員が別な牛を調査に行った時に「一目ぼれ」し、母「あい」の成績を調べると後代検定牛肥育でBMS No.10が判明したので、購入を決定しました。また、その母「あい」の子はどれも発育がよく、娘牛や孫を積極的に牧場に保留しているそうです。

今回の選抜について、社長の前崎さんは、「GH最高登録得点86.1点を記録しているので、特徴を活かして繁殖牛で多く残して北海道を代表する種牛になってほしい」と期待を寄せています。

日本とカナダに２人の親方を持つ木古内町の星

～輪島牧場を訪ねて～

写真①　輪島寛さんとアイオーン娘牛

今回は、日本とカナダの名門牧場で実習され、現在木古内町の実家牧場で後継者になった輪島寛さん【写真①】をご紹介いたします。

【木古内町】

輪島牧場のある木古内町は北海道南西部の渡島半島の南西部に位置しています。南部は津軽海峡に面し、北部は山岳に囲まれ、人口約4500人の自然豊かな町です。毎年1月中旬に、下帯姿の４人の若者が厳寒の海に入り豊作や豊漁を祈願する1800年代から続いている伝統行事“木古内町寒中みそぎ祭り”が行われ、多くの観光客が訪れます。最近では、全国で話題になった北海道新幹線の開通により、木古内町は北海道の玄関口にもなりました。1月にオープンした道の駅“みそぎの郷　きこない”の入り口に立つ、“はこだて和牛”をモチーフしたイメージキャラクターの“キーコ”ちゃんから、酪農畜産業が木古内町の主要産業になっていることが伺えます。【写真②と③】

【輪島牧場と寛さんの実習歴】

輪島牧場は、搾乳牛46頭をフリーストールで管理し、20頭つなぎの牛舎でミルカー6台を使用して、入れ替え搾乳を行っています。未経産牛は30頭、飼料給仕・搾乳・牛床清掃は寛さんと母の真由美さんが担当しています。作付け面積は、草地36ha、デントコーン7ha（借地含む）です。父親の輪島桂さんは、新函館農業協同組合の代表専務理事を務めており、地域の農業振興に日々尽力されております。

輪島さんは、高校卒業後専門学校へ進学しましたが、牛が好きだったので退学して実家の牧場を手伝い始めました。酪農の基礎を学ぶ為に札幌の学校法人　八紘学園へ進学し、卒業後長沼町にある名門牧場――（有）宇都宮牧場で約一年間実習しました。

海外実習への道を模索し始めたのは、一昨年、北海道ホルスタイン農協主催の“乳牛改良・審査サクセッサー（後継者）プログラム”※注へ参加した頃でした。第8回目のプログラムに参加した輪島さんは、前期と後期にわたり計8日間の研修を修了後に、カナダの名門牧場――ルックアウト牧場で、約半年間実習することになりました。

海外実習で更に沢山の経験を積まれて輪島さんは現在、ご実家の輪島牧場に戻り、国内外で培ったものを活かしながら、日々の作業に加え、牛の改良にも熱心に取り組まれています。

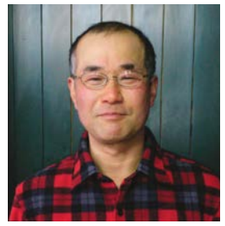
※注：乳牛改良・審査サクセッサー（後継者）プログラム：乳牛改良の推進と若手酪農後継者育成の一環として、乳牛改良知識の向上と乳牛審査技術習得等を目的として、北海道ホルスタイン農業協同組合が毎年、組合員子弟を対象に主催するスクーリングプログラムです。これまで8回を開催し、修了者は100名を超えています。

【日本の親方・宇都宮牧場】

国内の実習先（有）宇都宮牧場は、“町村 金弥氏”・“黒沢 西蔵氏”と並ぶ「北海道酪農の三大先駆者」のうちの“宇都宮　仙太郎氏”が始められた牧場です。仙太郎氏は、20歳の時に酪農に志を燃やし北海道へ移住し、本場アメリカの酪農を学ぶ為にウィスコンシン州農事試験場などで学び知識と技術を身につけました。民間では日本で初めて優良ホルスタイン種50頭を輸入して、改良に力を注ぎました。北海道の酪農が発展したのは、仙太郎氏が先進的な酪農を実践し、改良に取り組んで業界を牽引していったからだと言っても言い過ぎではありません。今でも毎年、公益財団法人 宇都宮仙太郎翁顕彰会による「宇都宮賞」が継続しています。

写真②　新幹線 木古内駅

写真③　キーコちゃん



写真④　宇都宮 治 氏

1951年に神奈川県で行われた第1回全国ホルスタイン共進会では、息子の勤氏が「マラソンベツス　バーク　ロメオ　ジエマイマ」号で名誉賞を獲得しました。現在の宇都宮牧場は、北海道長沼町の見晴らしのいい丘の上に位置しています。輪島さんにとって、日本一尊敬する酪農家である宇都宮 治氏【写真④】は4代目として牧場支え続けています。現在、搾乳牛85頭、育成牛55頭、草地70ha、デントコーン10haを管理しています。

輪島さんは「治さんの下で実習した一年間で得たことが今の自分の全てです。物を大切に使うこと・常に体を動かして、手際良く仕事を終わらせること。全ては経営の為に必要なことだと気づかされました。治さんは従業員さんや実習生に指示を出すと同時に、自分もそれ以上に動くので、治さんのようになりたいという一心でついていきました。ただ指示を出しているだけの親方とは違うな～と感じています。」と話してくれました。

一方、親方の宇都宮治さんからは、「今後酪農家の軒数はどう頑張っても減少する傾向にあります。しかし地区として、20代～30代が仲間となって盛り上がっていれば、様々な苦難を乗り越えていくことができると思います。実習中に見ていても輪島さんは協調性があり、その核として地域をまとめていくことができる人だと思うので、仲間を大切にして頑張ってほしい。また、30歳までの経験値がその後の酪農人生において重要な重みを持っているので、今でも十分に経験を積んでいる輪島さんですが、今後もそういった機会を大切に常に新しいことに目を向けていって欲しいです。」と大きな期待を寄せています。

【カナダの親方・ルックアウト牧場】

海外実習で半年間滞在したのは、カナダ・ケベック州のルックアウト牧場です。牧場主は、昨年の北海道ナショナルショウ審査員を務められたカラム・マッキンベン氏で、世界的に有名なブリーダーです。牧場の代表牛としては、昨年行われた第14回全日本ホルスタイン共進会で４歳級1等3席に入賞した、「TMF　セプテニー　チーズ　アツトウツドフオーゼ　ET」の母で、「ABF　セプタンバー　チーズ　ET（EX-94）」が挙げられます。本牛は2011年カナダローヤルウィンターフェアにおいて5歳級1等5席に入賞、同年のオールアメリカンにもノミネートされました。また、「コビキユード　ジエームズ　サマー（EX-96）」は、2009年の同共進会において成牛クラス1等3席に入賞しています。

牧場は現在、搾乳頭数30頭、育成牛60頭を飼養しており、全て購入飼料・購入牧草で管理しています。輪島さんはここで、尻尾洗い・乾草給仕・牛洗いなどの仕事を任され、牛床・牛体が綺麗な状態を保つために、仕事の日はほとんどの時間を牛舎で過ごしたそうです。

・日本との違いについて――「とにかく乾草の質が良く、食べているものが違うとこんなにも牛が違うのかと驚きました。収穫時にあまり反転しないため栄養価が高く、そのため子牛の頃から幅がある尻台が長い良い牛ができるのだと思います。日本ではなかなか真似できませんが、近づけるように努力したいです。」

・海外実習で苦労したところについて――「英語での意思疎通が本当に大変でした。しかし、カラム氏が日本人に対しても優しく丁寧に接してくれたおかげで仕事をこなせたと思います。一番うれしかったのは、帰国の日に、“ここへ戻ってきたかったら、いつでも戻ってきなさい。”と言ってくれたことです。ルックアウト牧場で一番好きだった牛の受精卵もいただけるので、今から楽しみにしています。これからもこの繋がりを大切にしていきたいです。」

ちなみに、その彼が“一番好きだった牛”は「ファイアーマン」の娘の「エルムブリツジ　FM　ラバボー　RED（EX-94）」で、12歳にしてローヤルウィンターフェアで活躍しているショウカウです。今後この牛の一族が輪島牧場で活躍する日が楽しみです。

【2つの目標】

2人の著名な親方の下で多くのことを学んで、実家に戻ってきた輪島さんには、2つの大きな目標があります。まず一つ目は「経営面」で、搾乳牛を60頭前後まで増やし、搾乳方法もロボットに変えていきたいです。そしてもう一つは、牛の「改良面」です。主に体型面での改良を進めて、輪島牧場初のEX牛の誕生を目標にしています。牛群の血液構成面では、今まで「ダーハム」、「セプテンバー」、「アドベントRED」が多いですが、これから「ゴールドウィン」系を入れたい考えだそうです。また、現在、20頭ほど当団種雄牛「アイオーン」の娘がおり、「フレームがしっかりした牛が多いので、今後が楽しみだ」と話してくれました。

【最後に】

全国的に酪農家の減少は食い止められない中、輪島さんのような若い力が目標に向かって突き進むことで、地域を盛り上げ、さらに酪農畜産業界全体を活性化させていくことがとても大事だと感じました。

この度は、ご多忙にもかかわらず取材に応じてくださった輪島　寛さん、宇都宮　治さんに感謝を申し上げるとともに、両牧場の更なるご発展をお祈りいたします。

（道央広域事業所　大崎　悠里）

操上牧場 交配相談レポート

～情勢に左右されない「搾れる牛」へ～

今回は平成23年から当団の交配相談サービスを利用していただいている富良野市の操上牧場で、その活用法や改良方向などをお聞きしました。

ちょうど訪問前日が牛群検定（乳検）でしたが、1頭当たり平均乳量は40.2ｋｇと高く、年間検定乳量12,500ｋｇ、体細胞数5.8万、分娩間隔420日を維持されている高泌乳牛群です。また育成管理も徹底されており、平均初産分娩月齢は23カ月となっています。

交配相談サービスを始めたきっかけはなんですか？

元々は日本ホルスタイン登録協会北海道支局が発行している近交回避システムを利用していました。平成23年に上川地区の乳検連総会でＧＨから交配相談サービスの紹介があり、近交回避とは違い改良量が表示されるとのことだったので富良野の乳検全体で取り組んでいくことになりました。授精師さんがとても協力的なので、富良野全体で継続できているのだと思います。（現在は38戸が実施）

改良目標に「ＮＴＰ」と「産乳成分」を設定されている理由はなんですか？

ＮＴＰは全体改良ができるバランスのいい指標です。様々な意見がありますが種雄牛のランキングも最終的にはＮＴＰが指標になっています。今の牛は乳器もどんどん良くなっていて、昔に比べて、乳房はコンパクトで小さくなったのに乳が出るようになりました。ＮＴＰで上位の牛を選んでいれば必然的に乳器は良くなっていっている印象です。肢蹄は削蹄や牛床の状態など環境の影響が大きく、繁殖も管理の部分が大きいと思っています。

また、うちはＴＭＲを給餌しており個体管理ではなく一群管理です。同じ餌の量に対して、反応（乳量）がバラバラだと管理が難しく、それで困っている牧場をたくさん見てきました。そのため牛の反応が同じになるように統一したいという目的もあり、この形質に設定しています。

近交係数の上限値を6.25％ではなく7％～8％程度を希望されていますが。

6.25％以下で設定してしまうと、6.25％よりも高い牛は一切表示されなくなります。改良量が近交退化量を上回っていることが重要であると思っていますが、急激な上昇は避けたいため、そのバランスを考えながら多少近交係数の高い組合せも表示されるようにしてもらっています。最初に種雄牛の能力はもちろんのこと、ファミリーに対して血統が近すぎない種雄牛を選ぶのも重要です。

取材を受けてくださった操上徳志さん、隆明さん、敏江さん

当団の交配相談では近親交配や遺伝病の発症を避けるため、近親交配の基準とされている上限値6.25％の設定を基本としています。近交係数の上限値を上げる場合には、操上牧場のように種雄牛選択の際に系統を考慮したり、改良量の高い種雄牛を選択することを前提としています。

今使っている種雄牛はなんですか？

今使っているのは産子を見てみて良かったのでギヤラクシーをもう一度利用しています。あとはレガリア、エレベーシヨン、エモーシヨンなどです。マツクイーンは今搾っていて、乳房がとても良いのでもう1回使いたかったと思っている牛です。今はうちのファミリーにはほぼ国産種雄牛を使っています。ショウで評価の高い海外の種雄牛情報なども入ってきますが産乳能力が低い場合は絶対に使いません。例えばゴールドウインは体型が優れているのは認識していましたが、ゴールドウインの体型の良さに能力を兼ね備えた息牛が出てくるのを待っていました。それで使ったのがスパークリングです。その頃ゴールドウインをまったく使用していなかったのでうちの牛群にはアウトクロスでした。交配相談で近交係数も6.25％以下で1頭だけ推奨されていたのを授精して生まれたのが「フレツシユ シエネル」（2歳 15,204ｋｇ 02-02 85.0）です。

フレツシユ シエネル（父:スパークリング 母の父:ＦＢＩ）

交配相談を利用してみてどうですか？

毎年着実に乳量が伸びています。最近はバルククーラーも大きいサイズに更新しました。飼料価格や個体販売額は変動が大きく波があります。今は少し落ち着いているというか高値に慣れてきてしまったけれどまた高騰するかもしれません。そのため個々の牛の能力を高い水準で揃えておくことはとても大事だと思います。

現在市場では高値が続いていますが、操上牧場では以前よりＦ1や黒毛受精卵は一切使用せず、性選別精液を積極的に利用しながらホルスタインのみを授精されていました。経産牛58頭に対して未経産牛70頭という割合も納得です。また過去の雌牛の個体データや交配相談の情報を用いて牛群に残す牛を選抜しているとのことでした。

素晴らしい経営の中に、交配相談を組み込んでいただき、雄側からの遺伝的な部分の改良を担うことができていることがとてもうれしく思いました。

今回はお忙しい中、快く取材にご協力いただいた操上牧場のみなさまに厚くお礼申し上げます。

フレツシユ シエネルは訪問時、乾乳中でした

（改良情報課　藤元郁子）

注目のカウファミリー 第30回

「サンデイバレー プレーン サフアイア VG-87

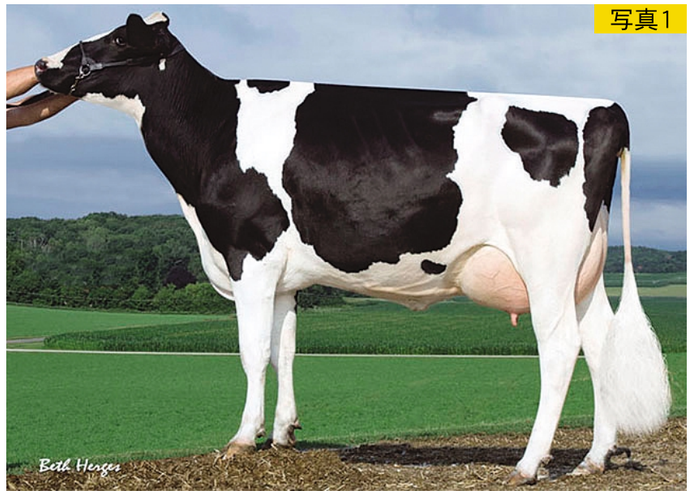


写真1

今回は近年高インデックスの種雄牛を多数輩出している「サンデイバレー プレーン　サフアイア」ファミリーを紹介します。サンデイバレー　プレーン　サフアイア【写真1】はウィスコンシン州のサンディバレー牧場の現在の看板牛で、当牧場ではこの牛からの子孫が多岐に渡って繁栄しています。サフアイアの血液を遡るとスノーエヌデニセス　デリア　ファミリーに繋がります。2016年4月公表の北米における検定済み種雄牛成績では、サフアイアの息牛が上位にランキングしています。SEMEX社所有のサルーンは母譲りの体長・体高に富んだフレームと類稀な産乳能力を持ち合わせています。サルーンはアメリカで第2位、カナダで第11位と評価されており、異父兄弟のスターリングもTPI第3位とサフアイアはブルダムとして活躍が著しいエリートカウです。

サンディバレー牧場のオーナーであるグレッグ・バウアー氏はかねてより希望していたデリアの血液を導入する為、2002年にデリアの孫に当たるレーガンクレスト　ジエービー　タータムを購入しました。彼女を大変気に入ったバウアー氏は彼女の娘オーソアツプル　マーシヤル　アリア【写真2】も購入し、乳用性に富んだスタイリッシュな雌牛であったアリアは初産でVG-89点を獲得しました。その後自家産種雄牛フオービツデンとボルトンによる交配を重ね、サフアイアの母に当たるサンデイバレー　ボルトン　シエリア【写真3】が誕生しました。シエリアはボルトンらしい幅、深さと乳用強健性に富み、理想的な角度の肢蹄を備えており、その特長は当ファミリーの礎となりました。彼女は初産から365日20,000kg以上を泌乳しましたが、トラブル無く健康な生涯を貫いた大変丈夫な雌牛で、3産目にはEXを獲得しました。シエリアの好肢蹄はプラネツトとの相性が良く、サフアイアへと受け継がれました。サフアイアは強い胸と良く開帳した肋を備えたフレームに、好肢蹄と極めて付着の強い乳房を持つ強健性に富んだ雌牛で、初産でVG-87を獲得しました。

サフアイアの子孫は彼女同様幅と長さのある尻と良く開帳した肋を備える力強い雌牛が多く、ロバスト、アルタアイオタ、モーグルによる受精卵から血液を広げています。特にロバスト×プラネツトという掛け合わせでは4頭のVG級の雌牛を生産し、その中でも最もインデックスが高く、サフアイアの最初の娘牛でもあるサンデイバレー　ロバスト　ルビー【写真4】は投資家グループのエリート・デイリー・ジェネティクスに購入されました。その後、ルビーはジェノ・ソース牧場で採卵を繰り返し、ST社のルビコンや彼女の孫牛に当たるカリスマテイツクといった上位のヤングサイアを輩出し、ブルダムとして活躍しています。

サフアイアの子孫で最もインデックスの高い経産牛はサンデイバレー　モーガン　エラ【写真5】で、現在CTPI第5位にランキングしています。エラのルビコンによる未経産牛もGTPI第7位と、ファミリー譲りの高い遺伝伝達能力を発揮しています。サルーンの全兄弟に当たるサンデイバレー　IO　アメシスト【写真7】はサフアイアの娘牛で最も血液を増やしている1頭です。また、サンデイバレー　モーグル　サンセツト【写真15】は世界で最初にEXを獲得したモーグル娘牛です。

系統図

写真2

写真3

写真4

写真5

写真6

写真7

写真8

写真9

写真10

写真11

写真12

- ♀ スノーエヌ　デニセス　デリア　EX-95（S：チーフマーク）
  - ♀ レーガンクレスト　テスク　デラ　EX-90（S：テスク）
    - ♀ レーガンクレストジエービー　タータム　ET　VG-87（S：ルドルフ）
      - ♀ オーソアツプル　マーシヤル　アリア　ET　VG-89（S：BWマーシヤル）【写真2】
        - ♀ サンデイバレー　フオービツド　サリー　VG-87（S：フオービツデン）
          - ♀ サンデイバレー　ボルト　シエリア　ET　EX-92　（S：ボルトン）【写真3】
            - ♀ サンデイバレー　プレーン　サフアイア　VG-87（S：プラネツト）【写真1】
              - ♀ サンデイバレー　ロバスト　ルビー　ET　VG-87（S：ロバスト）【写真4】
                - ♀ EDG　ルビー　モーグル　ローズ　ET（S：モーグル）
                - ♂ シーガルベイ　カリスマテイツク　ET（S：カタリスト）　GTPI＋2711　第12位
                - ♂ EDG　ルビコン　ET（S：モーグル）GTPI＋2697　第19位
              - ♂ サンデイバレー　スターリング　ET（S：ロバスト）　TPI＋2504　第3位
              - ♀ サンデイバレー　ロバスト　エメラルド　ET　VG-87（S：ロバスト）
                - ♀ サンデイバレー　モーガン　エラ　ET　GP-83（S：モーガン）【写真5】CTPI＋2626　第5位
                - ♀ サンデイバレー　エタニテイ　ET（S：ルビコン）GTPI＋2827　第7位
              - ♀ サンデイバレー　ロバスト　オパル　ET　VG-86（S：ロバスト）
              - ♀ サンデイバレー　ロバスト　ジエイド　ET　VG-85（S：ロバスト）【写真6】CTPI＋2445　第267位
              - ♀ サンデイバレー　IO　アメシスト　ET　VG-87（S：アルタアイオタ）【写真7】
                - ♀ サンデイバレー　モーグル　アンバー　ET　VG-88（S：モーグル）【写真8】
                - ♀ サンデイバレー　ドラコ　アセント　ET（S：ドラコ）　GTPI＋2743　第105位
                - ♀ サンデイバレー　MG　アマレツト　ET　VG-87（S：モーグル）【写真9】
                - ♀ サンデイバレー　ウノ　アジソン　ET　VG-86（S：ウーノ）【写真10】
                - ♀ サンデイバレー　モーグル　アミー　ET　VG-86（S：モーグル）【写真11】
                - ♀ サンデイバレー　MSCL　アマゾン　ET（S：マスカレジー）
                - ♀ ノースドリーム　サンデイバレー　アーテイスト　ET（S：バリスト）
              - ♀ サンデイバレー　アイオタ　トパーズ　ET　VG-86（S：アルタアイオタ）【写真12】
                - ♀ サンデイバレー　ターコイズ　VG-88（S：マツカチエン）【写真13】
                - ♀ サンデイバレー　クランチ　トプシー　ET　VG-85（S：クランチ）【写真14】
              - ♂ サンデイバレー　サルーン　ET（S：アルタアイオタ）TPI＋2618　第2位
              - ♀ サンデイバレー　MOGL　サンセツト　ET　EX-91（S：モーグル）【写真15】
              - ♀ サンデイバレー　MOGL　サマー　ET　VG-88　（S：モーグル）【写真16】

写真16

写真15

写真14

写真13

北米資源調査レポート

去る3月に資源調査のためアメリカ・カナダを訪問しましたので、乳牛改良の一部をご紹介します。

1. 酪農情勢

北米における酪農情勢は、昨年より乳価が下落し続けており、訪問時の生産者乳価は＄15／100ｌｂ(日本円で約36円／ｋｇ)でした。2年前の好況より一転し、乳価が低い値を推移しているため、酪農情勢は厳しくなりつつあります。乳製品の輸出が低迷していることが原因の一つとなっており、今後の先行きは何とも予想できない状況でもあります。北米でも牛肉価格が高騰しており、肉用種を交配してＦ1生産をする酪農家が増えてきているようです。

@スピーク-NJ牧場

2. 乳牛改良状況

北米でのゲノミック評価成績の活用は、ブリーダーだけに留まらず一般酪農家にも浸透しつつあり、今日ではＳＮＰ検査頭数は100万頭を超えており、特に大規模農場でのゲノミック評価の利活用が増えてきています。昨年より週1回の頻度でゲノミック評価が得られるようになり、より早期に未経産牛を選抜することが可能となり、牛群に残す牛／残さない牛というのが早期に判断されています。

北米でのゲノミック評価には、昨年4月より飼料効率指数(Feed Efficiency)と繁殖指数(Fertility Index)が加わり、より効率的に乳生産できる牛の選抜が可能となりました。更に加えて、近年では耐病性に関する指数も開発されています。主に6つの疾病形質(乳房炎、跛行、子宮炎、胎盤停滞、第4胃変位、ケトーシス)とゲノミック情報との関連性を調査し、数値化したものを評価値として提供しています。これにより、より健康な牛が選抜され、牧場内での疾病に対する損失費用を抑える効果が期待できるとのことです。

先行きが予想できない将来に向けていかに効率良く乳生産ができるか？この課題に対して、ゲノミック評価は経済損失の軽減のためにも活用されています。

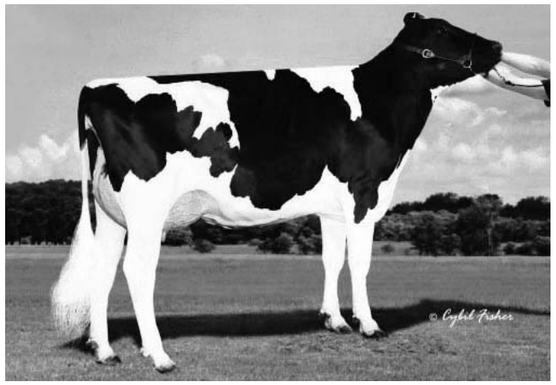
3. 種雄牛の母および交配種雄牛

現在、世界の授精所は高ゲノミック評価成績の未経産牛を計画交配の対象としており、主な未経産牛は、モーグルの息牛のシルバーやデルタからの娘牛、スーパーサイアーの息牛のスーパーショットやスパークからの娘牛、マツカチエンの息牛のモントレーやキングボーイからの娘牛などが対象となっています。

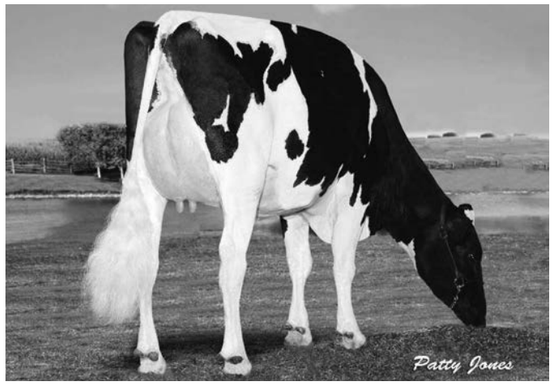
これらに高ゲノミックヤングサイアを交配するのが主流となってきており、系統にスーパーサイアーやモーグルを含む高ゲノミックヤングサイアが多数います。他にはアルタフアーストクラスやハロゲンの息牛も利用されています。ヤングサイア時にゲノミック評価が高くない為に計画交配に用いられなかった検定済み種雄牛でも、成績が高く血統的価値が充分であれば一部で計画交配に利用されています。

@コムスター牧場

スーパーサイアー娘牛



【CTPI No.1】SSI Suprsire miri 8649 ET VG-88

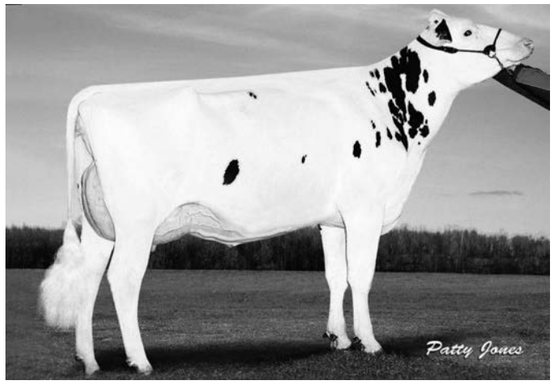


【CTPI No.3】Seagull-Bay Ssire Debra-ET VG-88

モーグル娘牛

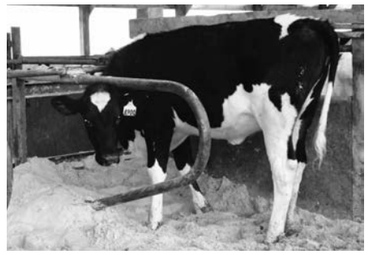
【CTPI No.11】Plain-Knoll Mogul Mariah VG-88

ブルーマスター娘牛



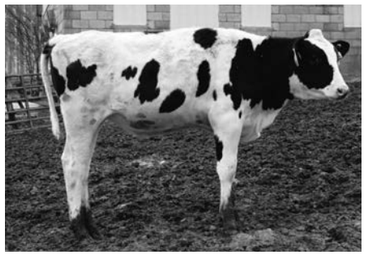
【LPI No.1】SnowBiz Brewmaster Swan-ET VG-87

シルバー娘牛@モーニングビユー牧場



デルタ娘牛@デスー牧場

スーパーシヨツト娘牛@スピーク-NJ



スパーク娘牛@デスー牧場

モントレー娘牛@ツインビーデイリー牧場

キングボーイ娘牛@プロソスキー牧場

松岡牧場

～12年間の軌跡、子供たちに誇れる牧場へ～

旭川から北へ車を走らせること45分、今回私が訪れたのは「きのこの里」として知られる愛別町です。愛別町は北海道のほぼ中央にある上川盆地の東北端に位置しており、北海道の屋根と呼ばれる雄大な大雪山連峰の麓にあります。人口3000人ほどの町で、稲作やきのこ栽培などが盛んな地域です。

愛別町の市街地から北へさらに約10㎞向かったところに松岡牧場はあります。牧場主の松岡康弘さんは現在42歳、旭川市で教員をしている妻のゆきこさんと5人の子供を育てながら、和牛の繁殖経営をしています。30歳の年に就農し、現在、上川和牛改良協議会理事、JA上川中央畜産振興会副会長、上川中央NOSAI家畜評価会委員など、様々な役職を務めながら日々熱心に和牛の改良に取り組んでおられます。

就農への道、そして和牛農家へ‥

康弘さんは大阪生まれの兵庫県尼崎市育ちです。母の実家のある十勝で酪農家や人工授精師をしている叔父達の影響もあり、十勝の大自然に憧れ帯広畜産大学に進学し、北海道へと移り住みました。卒業後は札幌にある農業土木の建設コンサルタント会社に就職されましたが、デスクワークが多く自然との関わりが少ないと感じ、仕事でよく訪れていた地域の農家の人々が繋がりを持ちながら生活しているのを見て、農業への憧れを強くしました。それから仕事が休みの日に八紘学園の就農準備校へ行ったり、札幌近郊の果樹園へ話を聞きにいったりと情報を集め始めました。そんな康弘さんの本気度を感じたのか、当初は反対していた妻のゆきこさんも「私の実家で働いてみたら？」と勧めてくれました。6年勤めた会社を辞め、石狩市の池端牧場で半年ほど働いた後、平成16年の春、ゆきこさんの実家である愛別町の藤原牧場で働くことになりました。藤原牧場はもともと酪農家でしたが、その頃には搾乳をやめ、年間20頭ほど育成牛や初妊牛を販売する状況でした。酪農家として就農することも考えていた康弘さんでしたが、搾乳機器が使えない状態だったことや、牧場周辺は特に積雪が多く生乳の集荷に苦労することなどから、和牛農家への転換を決意しました。平成17年～18年に約20頭の黒毛和種繁殖雌牛を導入し、和牛繁殖経営に取り組むことになりました。

牛舎の様子

いざ、経営者に‥

最初の5年間は藤原牧場の従業員として働きましたが、自分の牧場を経営したい、1頭からでも自分の牛を飼う！という考えを本気で義父と話しをするうちに経営移譲の話になり、そして平成21年に、義父が65歳になる年を境に、正式に牧場の経営を移譲しました。その際、契約書を作成し、牛は農協職員とともに1頭1頭価格をつけ買取り、機械はリースで賃借料を払う形で取り進めました。

このような形で経営移譲を行った理由は幾つかありましたが、まず義理の両親が作ってきたものには相応に価値があること、次に実の親子ではない以上、発生する可能性のあるトラブルを避けたいこと、そして何よりも自分の力で就農して、子供たちに胸を張って“自分の経営する「松岡牧場」だ”と言いたかったからだそうです。

それから7年を経った現在は、牛の支払いは終わり、機械も減価償却で価値が低くなってきたため買取りし、土地の代金をゆっくりと払っているところです。移譲後は義理の両親を雇用し、義父は2年前に辞めましたが、義母は現在も経理関係で働いています。

康弘さんと就農当初に導入した牛の1頭_かつもん号

現状と目標‥

現在は約40頭の成牛を飼養しています。3年ほど前までは比較的良い血統の繁殖素牛を購入していましたが、現在は市場価格が高騰している為、積極的に自家産雌牛を残し、去勢牛や古い繁殖牛を売り牛群の更新・増頭を図っています。

市場情勢に合わせて何を売るのか、何を買うのか見極めるのが重要だと考え、できるだけ市場へ行き様々な人と話し、情報交換を心がけているそうです。

今後の目標について、「今までは、自分の経営を安定させるために、株式や金融商品のように、市場情勢を見ながら牛の販売・導入をくり返した事を反省しています。今後25年経営を続けていくうえで、減少していく黒毛和牛の素牛を確実に出荷するため、繁殖性と出荷率の向上を一番の目標に掲げ、購入していただいた肥育農家の皆さんが潤い、消費者の皆さんが和牛肉を食べて家族や仲間と笑顔になることにつなげていきたいです。また素牛出荷60頭までに増頭することや、それに伴い老朽化が進んでいる牛舎の新設、雇用体制作りもしていきたいと考えています（現在は、週一の休暇、尼崎への帰省時などに、養牛経験のある叔父に有給で手伝ってもらっている）。」と話しておられました。

最後に一言‥

「サラリーマンだったときは、もらえる給料が全てでしたが、経営をしているとモノには価値があり、それを売買したり、税金を払ったり、農家を支える為のいろいろな制度があったり、勉強していくと収入に直結していて面白いです。子供が多いので学校行事などには参加するようにしています。一昨年からは美深高等養護学校愛別校の生徒たちの実習の受け入れもしていますし、消防団も10年以上入っています。地域のコミュニティに積極的に関わることで地域の一員として少しずつ認めてもらってきたのだと思います。

牛飼いを始めて、大学時代の友人に再会したり、農家の仲間や関係者の方々など多くの人達と出会えたことをとても嬉しく思います。もちろん妻や家族にはとても感謝しています。」

（道北事業所　吉田翔悟）

夏場は放牧地となる場所も取材時（H28.3.30）にはまだたくさんの積雪があった

大崎悠里が行く！ Moo飲んだ？Moo食べた？

岩手県の北部に位置する一戸町は自然豊かな町で、酪農・畜産業も盛んです。特に奥中山地区では、昭和63年にカナダから134頭のジャージー種を導入して以来、ジャージー種による牛乳生産が大きな割合を占めています。昨年の夏で約250頭を飼養しており、集乳もホルスタイン牛乳とは別で行っている為、成分率の高い濃厚なジャージー牛乳のみの販売・加工が可能となっています。また、ジャージー牛乳として生乳を販売しているのは、岩手県では唯一、ここ奥中山地区だけです。

今回ご紹介させていただくのは、

写真①_期間限定品

写真②　奥中山高原のアイスクリームが美味しい理由

そんな奥中山地区でJA新いわて奥中山営農経済センターが主体となって経営する“おいしい牛乳屋さん　クレムリ”です。“クレムリ”とは、フランス語で“牛乳屋”という意味です。平成12年に乳製品の消費拡大を目的で、奥中山地区のアンテナショップとしてスタートしました。その後、個人事業の“奥中山高原　結カフェ”の新設移転に伴い、両店併設の形で平成24年から営業しています。

不動の人気No.1は、奥中山地区自慢のジャージー牛乳で作られる“ジャージーソフトクリーム”。なんと昨年1年間に11,000個も売り上げたロングセラー大ヒット商品です。毎年のGWやお盆の時期に、他県からのお客様や帰省してこの味を求めて来るお客様が大勢来店されるそうです。季節限定商品もあり、今は旬のイチゴをふんだんに使用した濃厚な“厳選イチゴソフトクリーム”です。さらに、自慢のジャージーソフトクリームとイチゴ味の両方が楽しめる“いちごみるくソフト”も販売しています。私はこれをいただきましたが、甘酸っぱいイチゴ味と濃厚なジャージーソフトが口の中で合わさって、なんとも絶妙な美味しさでした。

他にもジャージー牛乳を使ったヨーグルトやカップアイスなど、様々なメニューがあり、併設されている“結カフェ”で食事とともにいただくこともできます。一部の商品は地方発送もしていますので、足を運ぶのは難しけれど食べてみたい！という方は、ぜひお店までお問い合わせください♪

写真③　ショーケース

写真④　左から（下段）酪農家の西舘友紀さん・西舘尋也さん・久保さん・山火さん・JA新いわて授精師　福士さん（上段）岩脇さん・購買課　久保課長

「おいしい牛乳屋さん クレムリ」
住所：〒028-5133
岩手県一戸町中山字大塚112-2
TEL/FAX：0195-35-3546
営業時間：OPEN 10：00 / CLOSE 18：00

ジェネティクス北海道　新人紹介

道北事業所
業務課
髙野　潤
（たかの　じゅん）
生年月日
平成5年9月30日
出身地　北海道 標茶町
出身校　帯広畜産大学
趣　味　ドライブ、スノーボード

４月より道北事業所に配属となりました髙野潤です。実家は酪農業を営んでおり、幼いころより乳牛と接してきましたがまだまだ知識不足です。何事も楽しむことがモットーですので、日々学ぶ姿勢を大切にしていきたいと思います。

大学入学までは空手道、学生時代はアイスホッケーをしていました。ドライブも好きで、休日は道北はじめ、道内各地を安全運転で走り回りたいです。

日々の業務を楽しみながら、１日でも早く当団の一員として皆様に認められるよう精進して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

道東事業所
業務課
児玉　和也
（こだま　かずや）
生年月日
平成5年10月14日
出身地　広島県 東広島市
出身校　帯広畜産大学
趣　味　水泳、ダンス

4月より道東事業所業務課に配属しました児玉和也です。
好きな言葉は「なんとかなる」です。高校まで競泳の長距離をし、大学ではよさこいやダンスをしていました。

地元の西条農業高校で乳牛を飼育したことがきっかけで牛を好きになり、当団へ入社いたしました。広島育ちの私にとっては、中標津の土地柄に毎日戸惑いと驚きを感じています。社会人１年目でまだまだ学ぶことが多いですが、早く皆様のお役に立てるよう精いっぱい頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

十勝清水種雄牛センター
種畜管理課
髙木　洋樹
（たかぎ　ひろき）
生年月日
平成9年4月12日
出身地　北海道 上士幌町
出身校　帯広農業高校
趣　味　サッカー

4月より十勝清水種雄牛センター種畜管理課に配属しました髙木洋樹です。

幼い頃から身体を動かす事が好きで6歳からずっとサッカーしています

高校で学んでいくうち酪農の奥深さを知り酪農関係に就きたいと思いました。

農高出身ですが知識、技術ともまだまだ未熟なので先輩からのご指導を頂き早く1員として役に立てるように頑張りますので宜しくお願い致します。

十勝清水種雄牛センター
種畜管理課
髙田　翔馬
（たかだ　しょうま）
生年月日
平成9年11月9日
出身地　北海道 岩見沢市
出身校　岩見沢農業高等学校
趣　味　球技全般

４月より十勝種雄牛センターに配属になりました、髙田翔馬です。

小・中学校はサッカー、高校の部活では、バレーをやっていました。幼少時代から身体を動かす事が好きです。高校で牛に係わり、将来牛に係わる仕事に就きたいと思い当団へ入社致しました。技術、経験共に至らない事が多いと思いますが、早く当団の一員としてお役に立てる様精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。